

Ferrari, Octavio

Octavii Ferrarii de re vestiaria libri septem.

Patauii, Typis Pauli Frambotti, 1654. 4vols. in 1. illus. (copper mono.). 23×17cm. <K383. 13-F> 文献番号 3-19

Hiler p. 310 Colas 1055 1055bis Lipper. 149

フェッラーリ, オッタヴィオ『衣服について』

タイトルはいたって簡潔であるが、古代ローマ時代の服飾を解説したラテン語の書である。著者はパドヴァ大学で古代ローマ文学の教鞭をとっていたオッタヴィオ・フェッラーリ(1607-82)。1642年に書かれた第1部はトガ, プラエテクスタ(貝紫染めの縁飾りのついた上衣), トゥニカについての3巻構成であったが, 1654年にはこれにラケルナ, パエヌラ, クラミュスやサグムなどの軍服, パリウムを扱った4巻が加えられ, あらためて全7巻として出版された。さらに1670年にも、『衣服に関する論文集, あるいはアルベルトゥス・ルベニウスによる衣服と幅広の線条についての註釈に関する考察』というタイトルでダイジェスト版が出ている。

フェッラーリは, ギリシア語, ラテン語, 哲学, 神学に通じていたが, その博識ぶりは, 処女作であるこの『衣服について』にもおおいに反映されている。服飾の解説にあたって彼は主に文学作品の記述を基に行なっているが, キケロー, プリーニウス, マルティアリス, ユウェナリスなどの作品からの引用が豊富にみられ, それぞれの服飾の形態, 各部の呼称, 素材, 色が詳しく説明されている。またこれらに対応するギリシアの服飾についても言及され, ブルータルコスなどのギリシア語文献からの引用も多く, そのため出版当時, フェッラーリ一人の手になるものではないとの疑いももたれたほどであった。さらにローマ時代の彫刻やコインを基にした29枚の銅版画が随所に入れられているが, それらには Jac. Ruffonus, 及び Jo. Georg というサインがみえる(図はトガのつくる襞の名称を解説した頁につけられた挿絵)。

第1部 (Octavii Ferrarii de re vestiaria libri septem) 261頁, 第2部 (Octavii Ferrarii de re vestiaria pars secvnda) 213頁, インデックス21頁という労作であり, イタリアの内外で好評を博した。対象を古代ローマに絞ってこれだけおびただしい数の服飾に関する事例を集めた研究はきわめて珍しく, したがって本書は今日に至ってもなお価値を失うことはないと言える。

本館には1685年版(4vols.in 1)も所蔵している。

(伊藤)

